

2(2) その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付けなど。(評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

特筆すべき教育活動

1) 日本初の大学院医工学研究科の教育を開始し、初年度の教育を遂行した。

前期課程学生数 1年生 31名 2年生 3名

後期課程学生数 1年生 23名 2年生 1名 3年生 1名

学位授与者数

修士 4名

博士 2名

2) ダブルディグリー制度による留学生1名を受け入れ、教育を行った。

ダブルPhD協定締結校: The University Pierre et Marie Curie

特筆すべき研究活動

田中真美教授が機能性材料を用いた触覚センサシステムの研究で平成20年度文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した。この研究はこれまで、医師の経験に依存していた前立腺がんの触診による診断を定量化するもので、臨床医学上の応用も広いものである。

芳賀洋一教授はMEMZAS株式会社(仙台市)と共同で、ロボットのように自在に操ることができる電子内視鏡を開発した。この研究結果は日経産業新聞、朝日新聞、読売新聞に掲載された。川下准教授の微小球によるがん治療法に関する研究成果が朝日新聞に掲載された。

佐藤教授、山口教授が日本機械学会賞、金井教授が第1回中谷賞、杉山助教が日本リハビリテーション学会論文賞を受賞した。

佐藤教授が科学研究費・特別推進研究、阿部教授がJST産学共同シーズイノベーション化事業に採択された。

特筆すべき社会貢献活動等

山口教授が主任研究者をつとめる科学技術振興調整費（新興人材養成プログラム）医療工学技術者創成のための再教育システム (REDEEM) では、その5年計画の最終年度を目標を達成して終了した。引き続き、平成21年度からは、これを科学技術振興調整費の事業としてではなく、自立した教育プログラムとするため、医工学研究科も共催する第2期REDEEM を実施するべく、組織的準備を開始した。

大阪商工会議所が経済産業省の支援を得て実施している「次世代医療システム産業化フォーラム」において、東北大学卒が設けられており、20年度は新家、松木、永富教授が講演し、研究成果の一部が企業化される方向で検討されている。

6月に本研究科の発足を記念して、東京で第1回東北大学バイオフォーラムを開催した。7月には、東北大学オープンキャンパスに参加し、高校生を中心に700名あまりが訪れた。9月には東北大学イノベーションフェア2008 in 仙台に出展、3月には本研究科創立1周年記念シンポジウムを公開して開催し、200名を超す参加を得た。